



イカ墨餃子



とれたて新鮮野菜



手作りあんこもち

## 伊江島特産品フェア (平成23年2月19日:ファーマーズマーケットやんばる店)

第10回 (12月) 定例会 補正予算、意見書	2・3
第10回 (12月) 定例会 一般質問	4~7
議案概要 (第9回臨時会、第10回定例会)、議会運営状況	8・9
議会の活動	10

# 平成22年 第10回 12月定例会

平成22年第10回（12月）定例会を、12月14日から15日までの2日間の会期で開きました。本定例会では、平成22年度一般会計及び特別会計補正予算案をはじめ、議員提出の意見書案など13件の議案を審議し、すべて原案のとおり可決しました。（審議結果の概要は8ページをご覧ください。）

また、開会初日には一般質問が行われ、4人の議員が村の対応や考えを伺いました。



▲タブレットPCと電子黒板を使った授業（北海道石狩市紅南小学校）  
＝写真提供：北海道総合通信局 総務課企画広報室

## 12月補正予算

### 両小学校にタブレットPC導入

12月定例会の補正で、一般会計予算に3億7,832万6千円が追加されました。

主に地方交付税が当初計上額より2億6,244万8千円増えたことによる増額です。

その他、国補助による伊江村教育の情報化推進事業費8,100万円が計上されました。この事業により、伊江小、西小の3・4・5年生を対象に、タブレットPCや電子黒板等の教材一式が導入される予定です。

## 補正予算質疑

**問** 伊江村教育の情報化推進事業について。ICT指導員を村で2人雇用するということが、村内から採用するのか。雇用期間はいつまでか。

**答** 村職員を採用するというのではなく、雇用拡大・創出のための事業である。ICT指導員については、現在、伊江島情報通信事業所（イーコム）の職員を想定している。3年間の事業継続を予定。

**問** 両小学校の高学年にタブレットPCを導入して教えるということだが、そのための授業日数を新たに設けるのか。

**答** 平成23年度から新学習指導要領に基づき小学校の教科書が改訂され、新しく「デジタル教科書」というのが取り入れられてくる。国の補助事業を活用し、それらに対応した教材一式を整備していくものである。

**問** ハブ買上金33万円の増額について。今年はハブが異常発生していると聞いている。村民に対して、防災無線放送等で注意喚起を促す必要があるのでは。

**答** これから農繁期を迎えるので、いろいろ検討し、村民に周知していきたい。

**問** ECセンター運営費の自動車航送料について。廃食油を村外の業者へ輸送するための費用ということだが、ECセンターで廃食油を再利用した事業は実施しないということか。

**答** 廃食油の事業導入については、まだ検討中である。現在、各家庭から回収している廃食油はドラム缶に溜めて具志川市の業者に輸送し、リッター当たり15円で買い取ってもらっている。しばらくの間、それを続けていく。

**問** 阿良区集落内磁気探査委託料について。同じ畑から3度不発弾が出て、その磁気探査をするということだ。今後、ほかの地区の畑で不発弾が発見された場合、同様な磁気探査を行うのか。

**答** 全部の畑を磁気探査するのは、現段階では不可能である。

**問** 県道ガードレール等復旧工事は、伊江島空港川平線で米軍が起こした事故によるものである。これは米軍が負担すべきではないか。

**答** 地位協定等の問題で最終的に防衛局が対処することになっている。場所が県道であるため、いったん県が工費を負担することになっているが、一日も早く復旧するために、県から村に権限移譲してもらい、村で工事を行い、改修後にその費用を防衛局に請求することになった。

意見書を

国に提出!



# 我が国の食と農の未来を守れ! 「TPP交渉への参加反対に関する意見書」を 全会一致で可決

我が国政府は、去る11月9日、APEC首脳会議に向けてEPA基本方針(包括的経済連携に関する基本方針)を閣議決定し、そのなかで米国、豪州など9カ国が行うTPP(環太平洋パートナーシップ協定)について「関係国との協議を開始する」方針を決定した。TPPは、関税撤廃の例外を認めない完全な貿易自由化を目指した交渉である。

我々は、工業製品の輸出拡大や資源の安定確保を否定するものではない。しかし、この国が貿易立国として発展してきた結果、我が国は世界で最も開かれた農産物純輸入国となり、食料自給率は著しく低下した。

例外を認めないTPPを締結すれば、日本農業並びに離島県として地域の雇用、定住を通じて国益にも貢献してきた本県農業は壊滅する。農家所得が補償されても、輸入は増大し、国内生産は崩壊していく。関連産業は廃業し、地域の雇用が失われる。これでは、国民の圧倒的多数が望む

食料自給率の向上は到底不可能である。

EPAは、交渉参加国の相互発展と繁栄を本来の目的とすべきであり、我が国がTPP交渉に参加しても、この目的は達成できない。

したがって、我が国の食料安全保障と両立できないTPP交渉への参加は絶対に行わないことを強く要請する。

以上、地方自治法第99条の規定により意見書を提出する。

平成22年12月15日  
沖縄県国頭郡伊江村議会

あて先  
内閣総理大臣、外務大臣、財務大臣、農林水産大臣、経済産業大臣、内閣官房長官、  
沖縄及び北方対策担当大臣

▶ TPP交渉への参加に反対する  
県民大会



平成23年1月29日、那覇市おもろまちの新都心公園で「TPP交渉への参加に反対する県民大会」が開催され、当日は農業関係者を中心に54団体、5400人が会場に集結しました。  
本村議会からも渡久地政雄副議長、内田竹保総務委員長、知念一邦経・公委員長が大会に参加し、TPP参加反対の意思を示しました。

## 議会中継システム不具合のお詫び



村民の皆さまに村政・村議会への関心と理解を深めてもらうために、村内の公共施設に設置されたテレビやパソコンで定例議会のライブ中継を行っておりますが、一部の公民館等において議会中継をご覧いただけない障害が発生しております。

障害の原因は、中継装置の故障によるものです。現在、復旧対応中ですが、修理等に時間を要することが予想されます。ご利用の皆様方には大変ご迷惑をお掛けし、心よりお詫び申し上げます。

視聴できる場所 (平成23年3月1日現在)	役場庁舎1階 東江上公民館、東江前公民館、川平公民館 西江上公民館、西江前公民館、西崎公民館
視聴できない場所 (平成23年3月1日現在)	福祉センター、阿良公民館、真謝公民館

お問い合わせ  
企画総務課  
**49-2001**  
-----  
議会事務局  
**49-2924**

## アリモドキ ゾウムシ根絶で 農家所得向上を

農林水産課長／  
他地域の事業導入成果を  
みて検討

**問** 本村は昔からイモの産地として有名である。昨今も紅イモがお菓子の原料としてもはやされ、農家の間で盛んに栽培されて大きな収入源になっている。しかし、イモ類に寄生するアリモドキゾウムシの被害を受けたイモは、悪臭と苦みがあり食べられたものではなく、商品価値もなくなり出荷できない。

新聞報道によると、アリモドキゾウムシの不妊虫放飼による根絶事業が平成6年から久米島で実施され、平成23年度中にも当地域での根絶宣言ができるのとことである。この事業は、本島地域での実施は難しく、離島で効果があると言われる。

イモの主産地である本村においても栽培農家の所得向上に寄与するため、アリモドキゾウムシ根絶事業の導入を県に働きかけることはできないか。

**答** 現在、県により久米島町と津堅島で同事業が実施されている。

事業実施の必須条件は、アリモドキゾウムシが寄生するグンバイヒルガオ、ノアサガオの除去や生イモ類の島外からの持ち込み規制などがある。

本村の海浜に自生するグンバイヒルガオ、ノアサガオは、波による海浜浸食や砂の集落地域への飛散防止などの役割を果たしている。

これらを除去することにより自然環境等への問題や影響がないか今後調査をした。

県では今後、宮古、八重山、沖縄本島の順に防除地域を拡大する考えである。他地域の事業導入による経過と成果の動向を踏まえたうえで県の指導を仰ぎながら検討していきたい。

## 村出身高校生の フェリー運賃を 完全無料化に

教育行政課長／  
現在の申請方法がベター

**問** 平成21年度から1人年間10回まで村出身高校生のフェリー運賃助成が実施された。その後、父兄の要望を受け、平成22年3月定例会で「実情に合わせて柔軟な運用ができないか」と質問したところ、平成22年度からは10回使った後も、必要に応じて2回目の助成ができるようになり、父兄の皆さんから大変喜ばれている。

**答** 乗船無料パスポートを実施することにより、個人や地域別の利用実績を把握するのが困難になる。また、他人が使用するなど不適切な問題が発生することが懸念される。

現在でも実質、無料化に近い状態であるので、実績を把握するためにも1人10枚単位で交付し、その都度申請してもらい追加交付するスタイルがベターだと思う。

**問** 完全無料化を実施した場合、村費の負担額ほどのくらいになるか。

今は、夏休みに教育委員会に来て申請する子もおり、職員にとっても生徒や保護者の皆さんとの情報交換の場になっている。いろいろな面から、現在の方法がいいと思う。

**答** 今年度実績（平成22年11月分まで）や若干の増加を見込んだとして230万円程度と予想される。

**問** 助成は2回目（20枚）までなのか。

**答** すでに20枚を使いきって、3回目の申請をした方もいる。必要に応じて、2回目、3回目と申請を受け付けている。



イモの作付面積は年々増加している。

島の子どもの教育振興、子育て支援の拡大の面からこの制度をあと一歩前進させ、高等学校に合格した時に村からのお祝いとして「高校生フェリー乗船無料パスポート（仮称）」を贈り、高校在学中の帰省時のフェリー運賃を完全無料化にしてはどうか。

**問** 高校に入学していく生徒数も年々10人から20人少なくなる。ということは、村の負担も少なくて済むということである。実際、現在も実質無料である。村民へのピーアールとして、はつきりと「無料化」だと言うべきでは。そのほうが

りがたみのある政策にならないか。



島袋 義範 議員

### 下水処理施設を整備し 海の汚染を防げ

建設課長／

現行通り浸透池等での対策が最善

**問** 本村は、海の再生を考へなければならぬ時期に来ている。海の汚染防止のため、生活排水や畑地からの泥水等は処理後に海に流す。そのためにも、溜池の浄化、下水処理施設の建設などは急を要する問題である。

**答** 本村は減農薬農業を指しているが、少なくとも海に流す前に処理することが大切だ。浸透式の処理では海の汚染につながる。国、県にも要請し、本村の将来のために海を守ってもらいたい。村当局の方針を伺う。

**答** 生活排水の処理事業については、過去にも下水道処理や集落排水事業を計画したが、各家庭の経費負担も余儀なくされ、村民の賛同を得られず実

施しなかつた経緯がある。

生活排水対策は、これまで同様、合併処理浄化槽の普及事業を啓発しながら推進し、排水路の水は浸透させることにより汚染防止対策としたい。

畑地からの泥水等の処理については、国、県にはそのような処理事業がない。現在のところ、農道事業などの付帯施設として浸透池をつくり、少しでも海への流出を防ぐのが最善の解決策だと考へる。

### 船便を年間通して5便にできないか

公営企業課長／

運航増便の見直しは難しい

**問** 現在の4便運航では、観光客がゆつくり島を巡り、食事、買い物等をするには時間が足りないとの指摘が多く聞こえる。年間通して5便にすることに

より、飲食店、お土産品の店の売り上げ増が見込め、経済効果もあると思う。

村当局はどう考へるか。

**答** 現在、夏休み期間は5航海運行を行っている。その現状は、朝1便と最終便は問題ないが、2便目以降の旅客数、車両台数が激減する傾向にある。年間通して5航海運行を行うと、会計を圧迫していくことが心配される。

また、船員には非常に厳しい勤務体制を強いることになる。現時点で運航増便の見直しは大変難しい。現行体制を維持しながら、今後の検討課題としたい。

**問** 村内の大型の飲食店は、昼食時に10人を超える客が来ると、時間が間に合わずに断るといった状況である。増便でなくても、少なくとも昼食時間に村内にいれるような便の変更ができないか。

**答** 現行体制を崩すことは、村民の足が崩れることになりはしないかという心配もある。この件は慎重に審

議したい。

### 総合的な食肉加工施設等の建設を

農林水産課長／

様々な方向から調査・調整を行う

**問** 牛、豚、山羊、鴨、魚等の肉類の総合的な加工施設の建設を、農業大学校や県農林水産部と連携し、地元の現場サイドの意見も聞きながら計画、推進すべきだと考へる。今後、県では山羊の人工授精、登録制度も確立する方向にある。新しい産業として調査する必要がある

**答** 山羊の人工授精、登録制度は、平成20年度から県農林水産部、家畜改良協会が主体となり総合利用調査事業を行っている。今後、県が実施する本事業の動向を見守りながら判断したい。

県内（先島含む）には食肉処理場が6カ所ある。現在、与那国の食肉処理場が「簡易と畜場」から「一般と畜場」へ

のではないか。

また、1年未満の簡易と畜場について設置可能かどうか、費用対効果を含め調査する考へはないか。

**答** 山羊の人工授精、登録制度は、平成20年度から県農林水産部、家畜改良協会が主体となり総合利用調査事業を行っている。今後、県が実施する本事業の動向を見守りながら判断したい。

県内（先島含む）には食肉処理場が6カ所ある。現在、与那国の食肉処理場が「簡易と畜場」から「一般と畜場」へ



仲宗根 清夫 議員

村政のこころを問う 12月定例会 一般質問

用途変更中ということで、県内に簡易と畜場はない。総合的な加工施設の整備及び1年未満の簡易と畜場の設置には、地元農家との調整、JAとの協議、用地問題等、様々な方向から調査・調整を行い、県の指導を仰ぎながら検討していきたい。

### ●その他の質問●

- ・さとうきび問題について
- ・緊急医療の件について
- ・ラム酒工場の建設について
- ・人材育成資金の問題について
- ・職員採用試験等の公平性、透明性について
- ・多目的総合グラウンドの建設について
- ・老人ホームの増設問題
- ・伊江島空港の再開港の件について
- ・芋の産地化の問題
- ・海岸地域の再生を含めた家畜焼却施設の建設について
- ・伊江ビーチの海浜の件について



内間 広樹 議員

### 地力増進のために 緑肥種子購入助成を

農林水産課長／  
財源的に補助は厳しい

**問** 本村の農業の課題として、地力の低下による収量や品質の伸び悩み、病害の発生が挙げられ農業所得に大きく影響を及ぼしている。地方の維持、増進の方法として緑肥作物の植え付けがある。今後の生産性の向上のため、緑肥作物の購入に対する助成ができないか。

**答** 地力の維持、連作障害防止に緑肥の導入は非常に大事だと考える。しかし、緑肥購入に対する国、県の補助事業制度はなく、昨今の厳しい財源を考えた場合、村としても慎重にならざるを得ない。たばこ農家一戸当たりの種子代は平均12万円で、大変厳しい現状であることは理解しているが、種子購入の補助については厳しい状況である。

**問** これは、たばこ農家だけの農業経営に大きく影響している。軽油に対する免税の

### 軽油税免除の 手続き緩和と 制度の存続を求めよ

住民課長／  
他市町村と歩調を合わせ  
要請

**問** 近年の燃料高騰は、我々の農業経営に大きく影響している。軽油に対する免税の

**答** 軽油税の免税は、多くの農業・漁業従事者が活用している制度で、経費節減に大いに役立っている。しかし、この免税制度は平成24年3月31日までの時限的措置になっている。制度がなくなるのは納得いかない。制度の存続と各自自治体で手

**問** 本村の児童生徒の活躍は目覚ましいものがある。しかし、中には不登校の児童生徒もいると聞く。多くの業務を抱えながらの対応では、学校現場にも限界があると思う。不登校児童生徒のために専門職員を配置すべきでは。

**答** 役場で調査したところ、村全体の緑肥代は約1290万円である。今後、各市町村の動向も見ながら検討したい。

**答** 本村の免税申請の手続きは、名護県税務所の窓口で免税軽油使用者証と免税証の交付申請を行い、交付された免税証を利用して、定められた販売店から購入することになっている。

**問** 本村の児童生徒の活躍は目覚ましいものがある。しかし、中には不登校の児童生徒もいると聞く。多くの業務を抱えながらの対応では、学校現場にも限界があると思う。不登校児童生徒のために専門職員を配置すべきでは。

**答** 不登校に陥る原因は様々だが、本村の場合、心因性が原因で不登校に陥るケースが多い。特に小学校から中学校へ進学した際、学習や学校生活環境のギャップ

けでなく、すべての農家が対象となる問題である。緑肥作物は有機物の補給手段として比較的扱いやすく、ソルゴーは畑にすき込むと、10アール当たり牛ふん堆肥2トンの施用効果があると言われている。品種によっては、センチュウや雑草を抑制する効果もあり、村の掲げる環境保全型農業を目指す上で、非常に有用だと思うがどうか。

措置はあるが、その手続き窓口は名護の県税務所となっており、日報提出、免税券の取得等に名護まで通わないといけない。各自治体でその手続きができるようにならないか。

**答** 県下の市町村を調査し、また歩調を合わせながら国県へ要請していきたい。

に適應できない「中1ギャップ」と呼ばれる現象で不登校、不登校気味になる生徒が多く、最大で7人の生徒がいた。学校と教育委員会はこれまで、担任や村教育相談員による家庭訪問や保護者へのサポート、専門の臨床心理士を月1回招き、生徒へのカウンセリングや教職員の指導方法等の助言を受けるなどの取り組みをしてきた。その結果、10月初めに6人ほどいた不登校生徒が2人に減少した。しかし、登校しても個別学習を受け

### 不登校児童生徒への 取り組みは

教育長／  
学習支援教員の増員で対応

など、不安定な学校生活を送っている生徒もおり、安心できる状況ではない。村内の学校における不登校生徒や低学力児童生徒等への対応を考えると、専門職員等の配置は緊急な課題だが、現在の県の教職員定数条例等では、それらの専門職員の配置は非常に厳しい。現在、各学校に配置している学習支援教員の増員等を行い、すべての児童生徒がよりよい学校生活を送れるよう努力していきたい。



議員 實嘉 名

### 高校生の保護者 負担軽減を県に求めたか

教育長／  
具体的にまだ  
引き続き努力する

**問** 平成22年6月定例会で「高校のない離島の生徒に対する助成を県に求めて行くべきでは」との一般質問に対し、教育長から「離島の教育長が丸となって何らかの形で要請できればと思う」という趣旨の答弁がされた。その後、県に対しどのような要請を行ってきたか。

**答** 11月4日、国頭地区教育委員研修会時の県教育委

員長及び教育委員との情報交換会の場で、離島出身高校生や生活困窮家庭への助成制度を構築してほしい旨の要請を口頭で行った。県教育委員長は、12月2日に開催された内閣府の沖縄振興審議会総合部会の中で、離島の教育振興に関連して、それらのことを提言されたことを期待する。離島の教育長との意見交換の機会がなく、まだ具体的な取り組みは行っていない。今後引き続き努力していきたい。

**問** 伊是名、伊平屋、伊江島の3村だけでも、早めに離島の教育長会議を開いて、県に要請していくべきでは。

**答** 義務教育は学校教育法の中で就学援助が制度化されているが、高校生への就学援助は制度化されていない。現段階で県教育長や県知事に要請を行っても、県が高校生への就学援助に予算を投じるのは難しいだろうと懸念する。

新しい沖縄振興計画の中には、給付制の奨学金制度の充実や離島の教育振興の項目もあるという。それらが制度化されるのを期待せざるを得ない面もある。

### 高すぎる国保税の軽減対策は

住民課長／

健康づくりを推進し医療費抑制に努める

**問** 平成22年9月定例会の決算審議で「国保税が高すぎて滞納世帯が増えている。国保税の軽減の

ために一般会計からの繰り出しを増やすべきでは」との質疑に対し、村長は「軽減措置を講じていきたい」と答えた。どのような軽減措置を考えているのか。

**答** 今回の12月補正で、一般会計から国保会計への繰出金を2000万円計上している。

医療費の抑制は国保税の軽減につながる。保健師・栄養士による健康指導相談を行うなど、生活習慣に起因する疾病対策、病気の予防・早期治療、生涯にわたる健康づくりを推進している。国保税については、村の国保運営協議会に諮問し相談したい。

**問** 村は離島であるがゆえ、国保税だけでなく、通院のためのお金もかかる。所得割、資産割、均等割、平等割といった仕組みの見直しを含めて、誰もが払える国保税の仕組みができないか。

**答** 1円もお金を取らないでできれば、それに越

### 子育て支援制度の充実を

福祉保健課長／

研究、検討したい

**問** 子育て世代から「一時預かり保育制度をつくらしてほしい」、「小児科通院時の船賃を軽減してほしい」との強い要望がある。そのような制度の構築はできないか。

**答** 一時預かり保育は、待機児童の多い都市部においては多くのニーズがあると思う。待機児童のいない、保育定員を満たしていない本村において、どれだけのニーズがあるのか、近隣市町村の動向を見ながら検討したい。小児科通院時の船賃助

成制度については、安心して子どもを産み育てるためには、どのような制度が必要なのか。助成方法等について研究、検討したい。

**問** 伊江島に身寄りのない人、知人も少ない人にとっては、保育所で子どもを一時的に預かってもらえたら、自分自身の通院時に負担にならない。条例には、病气等になった場合も入所できるとあるが、申請には医師の診断書が必要とのことだ。急な病气の際、診断書をもって入所手続きをするのは不可能だ。その辺を改善すべきでは。

**答** 条例の中に疑問点があれば、改正するのも必要だろう。十分内部で議論、調整したい。

### 詳しくは..

この紙面に掲載された一般質問や質疑の内容は、会議録に基づいて一部を要約したものです。さらに詳しく知りたい方は、各区公民館、中央公民館、村議会ホームページで会議録をご覧ください。

# 議案等の概要と審議結果

## ■ 第10回定例会 平成22年12月14日～15日

議案番号	件名	概要	結果
議案第67号	平成22年度伊江村一般会計補正予算(第5号)	現在の歳入歳出予算総額に3億7,832万6千円を増額。 2ページ参照	原案可決 (全会一致)
議案第68号	平成22年度伊江村診療所特別会計補正予算(第3号)	補正額0円。医薬材料費等の不足に伴う歳出科目内の予算組み替え措置。	原案可決 (全会一致)
議案第69号	平成22年度伊江村国民健康保険特別会計補正予算(第4号)	現在の歳入歳出予算総額に4,896万9千円を増額。主に一般会計繰入金を療養給付費に充当するための増額。	原案可決 (全会一致)
議案第70号	平成22年度伊江村老人保健特別会計補正予算(第3号)	補正額0円。不用額800万円を一般会計へ繰り出す。	原案可決 (全会一致)
議案第71号	特定地域特別振興事業・伊江島フェリー建造事業の請負契約の変更について	契約変更による増額 8,800万6,380円 変更後の契約金額 15億5,800万6,380円	原案可決 (全会一致)
議案第72号	渡り地地区畑地かんがい施設(中継水槽)工事請負契約について	契約の方法 指名競争入札 契約金額 9,324万円 契約の相手方 (有)金城土建・(有)比嘉組 建設工事共同企業体	原案可決 (全会一致)
議案第73号	伊江村税条例の一部を改正する条例	個人村民税の寄附金控除の対象に、村内の福祉法人(村社会福祉協議会、社会福祉法人麗峰会)への寄附金を追加する。	原案可決 (全会一致)
議案第74号	伊江村職員の休暇に関する条例の一部を改正する条例	①年次有給休暇の区切りを「暦年」から「年度」に改める。 ②介護休暇期間を「3か月」から「6か月」に改める。	原案可決 (全会一致)
議案第75号	伊江村職員の育児休業等に関する条例の一部を改正する条例	夫婦同時に育児休業を取得できるなど、育児休業等の取得要件が緩和された。	原案可決 (全会一致)
議案第76号	伊江村職員の勤務時間に関する条例の一部を改正する条例	①時間外勤務手当の支給割合の引き上げ。 ②時間外勤務代休時間制度の創設。 ③育児休業、介護休業等の取得要件が緩和されたことに伴う条文整備。	原案可決 (全会一致)
議案第77号	伊江村職員の給与に関する条例の一部を改正する条例	時間外勤務手当の支給割合等の改正。	原案可決 (全会一致)
意見書第3号	尖閣諸島海域での中国漁船領海侵犯事件に関する意見書	尖閣諸島沖の日本領海内で違法操業中の中国漁船が海上保安庁巡視船に衝突する事件が発生し、那覇地方検察庁は同漁船船長を処分保留で釈放した。県民及び国民の生命、安全及び領土・領海を守る立場から、国に対し次のことを要望する。 ① 尖閣諸島及び周辺海域が日本固有の領土・領海であるという毅然たる態度を堅持し、中国政府及び諸外国に示すこと。 ② 尖閣諸島周辺海域において、漁業者が自由かつ安全に操業・航行できるよう適切な措置を講じること。 ③ 中国政府に対して厳重に抗議するとともに、日中両政府は冷静な外交を通じ再発防止策を講じること。	原案可決 (全会一致)
意見書第4号	TPP交渉への参加反対に関する意見書	3ページ参照	原案可決 (全会一致)

## (9) 議会広報 いえそん

## ■ 第9回臨時会 平成22年11月29日

議案番号	件名	概要	結果
認定第8号	村道の路線認定について	路線名：西江上集落道23号線 起 点：東江上2547-3 終点：東江上2557-3 延 長：130m 幅員：5m	認定 (全会一致)
議案第60号	伊江村職員の給与に関する条例等の一部を改正する条例	沖縄県人事委員会の給与勧告並びに国の給与改定を考慮し、村一般職員の期末・勤勉手当の支給割合及び中高年層の給料月額を引き下げる。	原案可決 (全会一致)
議案第61号	伊江村火災予防条例の一部を改正する条例	複合型居住施設用自動火災報知設備を設置したときは、住宅用防災警報器等の設置が免除できるようになった。	原案可決 (全会一致)
議案第62号	北部広域市町村圏事務組合規約の変更について	組合を組織する市町村の共同処理事務（名桜大学の管理）について、負担金に関する規定を整備する。	原案可決 (全会一致)
議案第63号	平成22年度伊江村一般会計補正予算（第4号）	補正額0円。給与改定に伴う予算の組み替え措置。	原案可決 (全会一致)
議案第64号	平成22年度伊江村診療所特別会計補正予算（第2号）	補正額0円。給与改定に伴う予算の組み替え措置。	原案可決 (全会一致)
議案第65号	平成22年度伊江村国民健康保険特別会計補正予算（第3号）	補正額0円。給与改定に伴う予算の組み替え措置。	原案可決 (全会一致)
議案第66号	塵芥収集車購入売買契約について	契約の方法 指名競争入札 契約金額 1,155万円 契約の相手方 新垣自動車工業	原案可決 (全会一致)

## ■ 第1回臨時会 平成23年1月28日

議案番号	件名	概要	結果
議案第1号	伊江村住民生活に光をそそぐ基金条例	国の地域活性化交付金を基金に積み立て、平成23・24年度に実施する小中学校不登校対策事業の財源に充てるための条例制定。	原案可決 (全会一致)
議案第2号	平成22年度伊江村一般会計補正予算（第6号）	現在の歳入歳出予算総額に2億3,303万6千円を増額。主に黒糖工場整備事業費の増。	原案可決 (全会一致)
議案第3号	伊江村花き選別施設整備事業 備品購入（自動結束ロボット付重量選別機）の契約について	契約の方法 指名競争入札 契約金額 5,921万5,500円 契約の相手方 沖縄県花卉園芸農業協同組合	原案可決 (全会一致)
議案第4号	伊江村花き選別施設整備事業 備品購入（輪菊出荷物保管用冷蔵庫）の契約について	契約の方法 指名競争入札 契約金額 1,779万7,500円 契約の相手方 株式会社 アサヒプラント	原案可決 (全会一致)
議案第5号	ソーダ充填設備等備品購入（沖縄離島振興特別対策事業）の契約について	契約の方法 指名競争入札 契約金額 6,300万円 契約の相手方 ティーエスプラント 有限会社	原案可決 (全会一致)
議案第6号	伊江村 教育の情報化推進事業備品購入の契約について	契約の方法 指名競争入札 契約金額 6,951万円 契約の相手方 株式会社 オキジム	原案可決 (全会一致)

## 平成22年議会運営の状況（平成22年1月1日～12月31日）

平成22年の伊江村議会の運営状況は次のとおりです。

区分	回数	延日数	本会議	特別委員会	村長提出議案	議員提出議案	一般質問	傍聴人
定例会	4回	15日	12日	4日	79件	11件	11人	34人
臨時会	6回	6日	6日	0日	21件	3件	0人	7人
計	10回	21日	18日	4日	100件	14件	11人	41人

# 議会の活動

## 平成22年12月 .....

- |   |   |
|---|---|
| <ul style="list-style-type: none"> <li>1日 町村議会副議長研修会・交流会（副議長）</li> <li>2日 町村議会常任委員長・副委員長研修会（総務及び経公正副委員長）</li> <li>3日 北部市町村議会議長会第3回定例理事会・総会（議長）</li> <li>5日 第30回伊江村子ども会発表会（議長、副議長）</li> <li>9日 議会運営委員会</li> <li>10日 本部町町制70周年記念式典・祝賀会（議長）</li> <li>12日 イージマ郷友会忘年会（議長）</li> <li>14日～15日 第10回定例議会</li> <li>17日 伊江村振興計画審議会、伊江島一周マラソン大会実行委員会（議長）、第16回伊江島ゆり祭り実行委員会（議長、副議長）</li> <li>18日 第5回ハイビスカス祭り・第2回村民育樹祭（議員）</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>21日 村交通安全推進協議会（議員）、村フェリー建造検討委員会（議長、経公委員長）</li> <li>26日 ハイビスカスカップ第5回全国小中学生ゴルフ伊江島大会（議員）</li> <li>27日 宮里藍選手 米女子プロゴルフツアー5勝・県民栄誉賞受賞祝賀会（議長）</li> </ul> |
|---|---|



▲第2回 村民育樹祭

## 平成23年1月 .....

- |  |   |
|--|---|
| <ul style="list-style-type: none"> <li>4日 村成人式、新年交歓会（議員）</li> <li>6日 村消防団出初式（議員）</li> <li>8日 第9回少年野球伊江島交流試合（議長）</li> <li>11日 北部市町村会・議会議長会新年会（議長、副議長）</li> <li>14日 JAおきなわ北部地区新春の集い（議長）</li> <li>15日 牛初セリ市（議員）<br/>今期製糖安全祈願祭（議長）</li> <li>18日 国頭村議会議員視察調査来村、伊江島観光協会新年会（議長）</li> <li>19日 村フェリー建造検討委員会（議長）</li> <li>20日 第19回暴力団追放沖縄県民大会・暴力団壊滅</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>沖縄市民総決起大会（議長）</li> <li>22日 村商工会新年会（議長）</li> <li>25日 北部広域市町村圏事務組合議会臨時会（議長）、議員全員協議会</li> <li>26日 県町村新人議員研修会（内間議員、仲宗根議員）</li> <li>28日 第1回臨時会<br/>フェリー新造船に関する説明会（議員）</li> <li>29日 TPP交渉への参加に反対する沖縄県民大会（副議長、両委員長）</li> <li>30日 伊江小学校学芸会（議長、校区議員）</li> </ul> |
|--|---|



▲新年交歓会



▲出初式

## 平成23年2月 .....

- |   |   |
|---|---|
| <ul style="list-style-type: none"> <li>1日～3日 防衛省への表敬訪問（議長）</li> <li>6日 西小学校学芸会（議長、校区議員）</li> <li>9日 県介護保険広域連合議会全員協議会・研修会（名嘉議員）</li> <li>15日 県町村議会議長会第40回定期総会（議長、局長）</li> <li>16日 県離島振興町村議会議長会議員研修会・第2回定期総会（議員）</li> <li>17日 県町村議会議員研修会（議員）</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>18日 村振興計画審議会（議長）</li> <li>19日 ファームマーケットやんばる店「伊江島特産品フェア」（議長）、第4回日本ハイビスカス協会総会（副議長）</li> <li>24日 県介護保険広域連合議会定例会（名嘉議員）</li> <li>26日 中城村議会議員視察調査来村（議長）</li> <li>27日 第8回イージマ郷友会ふるさと交流ゴルフコンペ（議員）</li> </ul> |
|---|---|